

これまでの意見等まとめ

テーマ	主な視点・意見等	検討素材該当ページなど	検討回（意見のあった回）
現庁舎の課題	・建物の老朽化というのは定義がない（黒木）	P 7	第 1 回
地域行政等	・住民参加や災害時を考慮すると、5 地域に充実した機能をもっておく必要があるのではないか。本庁舎にあまり機能を集約する必要はない（黒木） ・総合支所が大きな機能を果たしているので、その議論なくして、本庁舎のみでどうするのかという話はいけないと思う（佐藤（孝）） ・三軒茶屋に世田谷総合支所を移転した場合の予算はどうなるのか（三田） ・三軒茶屋に世田谷総合支所が移転した場合、本庁舎に残る機能は何なのか。また、区民会館を地域交流のために具体的に使えるのか。この場所を中心にして世田谷区をどのようにしたいのかが判らない（三田） ・過去世田谷区でいろいろ仕事をさせてもらった時には、これからは総合支所に仕事がありていくという話だったため、そういう方向だったら本庁舎は小さくていいのではないか（高谷） ・どこまで地域行政を進めるのかを明確に打ち出す必要がある（卯月）	-	第 1 回
	・常勤職員は減っているが、非常勤職員が増えているのではないかと（三田） ・資料については、非常勤職員を含めて整理すべき（阿部） ・総合支所が増えて本庁舎が減るのか、あるいは総合支所も大きくなるけども本庁舎も大きくなるのか、方向性を示すべき（卯月） ・三軒茶屋に世田谷総合支所が移転して、本庁舎にも一部の機能が残るとするのは、区民の理解が得られるのだろうか（三田）		第 2 回
仮設用地	・代替地の確保は進んでいるのか（池谷） ・別な場所に土地を用意して、移転しない限り、建設的にも予算的にも大変ではないか（岩淵） ・一般区民感覚で工期が 7 年半というのは長い。工事中に代替地を用意できないのか（卯月）	その他	第 1 回
基本理念・基本的方針	・予算を明示すべき。区民への負担についてもう少し視点を置いた議論が必要である（山崎（節）） ・職員の働き方の改革も必要ではないか（佐藤（孝）） ・広場やオープンスペース（建物のない場所）をどうしていくのかが見えるような方針にすべき（阿部） ・12 ページの歴史の継承について、建築物についてしか記載されていない。広場の重要性についても記載すべき（阿部） ・区民サービスをフレキシブルに支える庁舎が必要である（大佛） ・平常時は執務空間、災害時は転用できるフレキシブルな対応力をもった庁舎建設が重要である（大佛） ・基本理念に、基本計画の「自治権の拡充と持続可能な自治体経営の推進」が反映されていない（小林） ・3．基本理念を実現するための踏まえるべき視点（3）（4）については、2．将来を見据えた行政組織改革と本庁舎にあるべき（小林） ・工事期間中の影響や総事業費など、経済的な視点が入ってない（小林） ・12 ページの位置づけが分からない（小林） ・12 ページはここに書くべきことなのか（卯月）	P 9 P 10 P 8 ～ P 12 P 12 P 9 P 9 P 9 P 9 P 12 P 12	第 1 回
基本的方針の各項目全体	・「検討する」という表現が多すぎる。区としての方向性を示すべき（官尾） ・「検討する」という表現については、実施するのか、すぐに実施できないのかという判断をして文章を修正したり、委員会で出た意見を追加する準備に入っていただきたい（卯月）	全体	第 2 回
基本的方針 1．区民自治と協働・交流の拠点としての庁舎	・周辺環境との調和だけでなく、周りの環境を良くしていく拠点になるようにすべき（小林） ・「災害時には災害対策活動にも活用可能な空間として」という部分については、災害対策機能の部分に記載すべきで、交流機能からは削除すべき（官尾） ・Wi-Fi の活用方法については、区から提供されるサービスとの連携や災害時の活用について記載すべき（小杉） ・行政からの情報発信と区民からの情報発信がある。ギャラリー機能というような考え方をうまく位置づけられるとよい（齋藤） ・食堂については、敷地の一部の区画を業者に貸して、民間に運営を任せるべき（官尾） ・お年寄りが含まれた交流が非常に少ないので、検討してほしい（山崎（廣）） ・今の食堂は地下で暗いので、明るいところに出て、良い環境にすべき（多） ・障害者の生産品を売るスペースができるというのは非常に良いこと（多） ・基本的方針の一番最初に「区民自治と協働・交流」があるが、書き方が弱い。もう少し参加・自治・協働について丁寧に書き、三層構造を踏まえた本庁舎に求められる区民交流、区民と行政の協働とは何かを明確に書くべき（卯月）	P 14 P 13 P 14 P 13 P 14 P 13 P 14 P 14 P 13	第 2 回

テーマ	主な視点・意見等	検討素材該当ページなど	検討回（意見のあった回）
基本的方針２．区民の安全・安心を支える防災拠点となる庁舎	<ul style="list-style-type: none">・広域的な活動のためには、世田谷通りを死守する必要がある。孤立した要塞とならないよう、本庁舎周辺を視野に入れた整備が必要（大佛）・庁舎は何時もゆるぎない司令塔であることから、工事期間中の災害発生を意識した検討が必要（大佛）・災害時には庁舎に人が殺到するはず。そのことについて、もう少し書き込むべき（大佛）・平常時と発災時の図面を２種類書くくらいのイメージで、早い段階で議論すべき（大佛）・民間でも、災害時に完全に自立でき、何百人かの帰宅困難者を受入れを想定しているところがある。３日間というのは初動期の目安としては良いが、もう少し対応すべきかもしれない（大佛）・本庁をどうするか、支所をどうするか、出張所をどうするかの議論をしないと、本庁の機能は決められないのではないか（山崎（節））・三層構造をとっているのだから、そのインフラを強化すべきというような文言があってもよい（佐藤（孝））・免震は最も維持管理費のかかる方式である（黒木）・総合支所や出張所、まちづくりセンターなどとの連携をどのように図っていくか、明記する必要があるのではないかと（小杉）・セキュリティ対策の中に、ネットワーク上のセキュリティについても明記すべき（小杉）・今の広場はレンガ調で、もろく、つまづく。災害時に適しているのか。広さだけでなく、耐久性や安全性も必要である（小杉）・熊本地震を見ても、備蓄は７２時間では足りないのではないかと（岩淵）・舗装されていない地べたの大切さを考慮すべき（阿部）・広場について、位置と誰が利用するかというところがもう少し見えたほうがよい（阿部）・緊急時に車両が中庭に入れなかったら意味がなく、アクセス道路に近い角のほうに広場をつくるなど、景観との調和にもつながっていく（阿部）・広場において避難してくる人をどこまで受け止めて、周辺にどうやって逃がすのかという規模と同時にネットワークも重要である（阿部）・時間によって広場の使われ方が変わっていくというステージプラン意識すべき（阿部）	<div>-</div> <div>-</div> <div>P 1 6</div> <div>-</div> <div>P 1 6</div> <div>-</div> <div>-</div> <div>P 1 5</div> <div>P 1 7</div> <div>P 1 6</div> <div>P 1 6</div> <div>P 1 6</div> <div>P 1 6</div> <div>P 1 6</div> <div>P 1 6</div> <div>P 1 6</div>	第２回
基本的方針３．すべての人に分かりやすく、利用しやすい、人にやさしい庁舎	<ul style="list-style-type: none">・「すべての人に分かりやすく、利用しやすい、人にやさしい庁舎」は当たり前のことであり、ここで書かなければならないのか。もう少し具体的に書くべきである（三田）・今の庁舎で一番やさしくないのはトイレなどのサニタリースペースである。その他一般トイレについても、もう少し膨らませてよい（齋藤）・平常時と時間外の出入口の場所が違うというのは、ユニバーサル視点から望ましくない（齋藤）・窓口カウンターについては記載があるが、記帳台に関しての配慮も必要である（小杉）・待合い空間について、子ども連れだけでなく、高齢者の方や身体の不自由な方とか、様々な方を記載すべき（小杉）・障害をお持ちの方については、別の項目を設けて対応を検討したほうがよい（官尾）	<div>P 1 8</div> <div>P 1 9</div> <div>P 1 9</div> <div>P 1 8</div> <div>P 1 8</div> <div>P 1 9</div>	第２回
基本的方針４．機能的・効率的で柔軟性の高い庁舎	<ul style="list-style-type: none">・書庫・倉庫の整備について、棚が倒れてこないなどの安全面についても明記すべき（小杉）・食堂は、民間施設が充実してきているのだから、職員用食堂は職員に限定したほうがよい（官尾）・ＩＴ化時代のオフィスのあり方は、画期的に変わっていくと思う。キャビネットがオフィス空間に置かれている状態というのは、非常に少なくなるのではないかと（黒木）・来庁者や職員のための育児室を整備すべき（岩淵）・大きなシンポジウムなどの場合には（ひととき保育など）対応しているかもしれないが、小さい会議などで行き届いていないかもしれない。職員用の育児室含め、１つの検討テーマとしたい（卯月）・海外と違い、日本のようなラッシュアワーがあるようなところで小さい子どもを連れて自分の勤務先に行くというのは疑問であり、子どもの負担を考えるべきである（三田）・紙文書をフロアに保管しておく必要があるのか（黒木）・ＩＴとの関連で、基本的方針を書く段階では、資料を減らしていく、あるいは減らした資料をどこに置くかということまで踏み込んで書けるとよいと思う（卯月）	<div>P 2 1</div> <div>P 2 2</div> <div>P 2 1</div> <div>複数ページに関連あり（協働、区民サービス、執務環境）</div> <div>-</div> <div>-</div>	第３回

テーマ	主な視点・意見等	検討素材該当ページなど	検討回（意見のあった回）
基本的方針５．環境に配慮し環境負荷の少ない持続可能な庁舎	・全体的に言いすぎである。CO2 削減というよりも、省エネ位が行政がやれるポイントではないか。区民の学習も押し付けがましい。地中熱は世田谷区ではあり得ない。コンパクトなものをつくることによって環境へ貢献する程度が実際のところではないか（官尾） ・記載がハードに偏っている。ごみ対策や文書の運用などのソフトの視点も必要である。私のオフィスでは自席にごみ箱がなく、フロア内の決まった場所にしかない。また、会議の時は、紙の印刷を禁止しており、事前確認やパソコンの画面上で確認するような運用にしている（池谷） ・民間のほうが進んでいる。もう少し民間の取組みについても検討してほしい。（卯月） ・建物を壊すことによって CO2 が出るということを考えた上で庁舎のあり方を検討すべき（黒木） ・最近グレーインフラからグリーンインフラの時代。コンクリートに頼ったインフラではなく、自然の力を生かしたインフラをつくっていくという方針に国土交通省も変わってきている（黒木） ・壊して新たなものをつくる際には、CO2 が大きな負担を自然にかけのだから、周辺あるいは敷地内のみどりのネットワークにより、復元するというような考えも必要だと思う（卯月） ・スケルトン改修した場合は、すべて解体した場合と比較して、CO2 と産業廃棄物の排出量が約 10 分の 1 で済む。これらも踏まえて、検討を進めていくべき（黒木） ・ごみの問題とか紙文書の削減など、民間の取組み事例を踏まえていく必要がある（卯月）	P 2 3 P 2 3、P 2 1 - - - - - -	第 3 回
	小林委員から提出された意見 ・（１）アの「CO2 の削減に向け」は「2050 年 CO2 排出量の 80%削減、21 世紀における脱炭素の達成に向け」とされたい ・（１）アの「CASBEE に基づく上位ランクを視野に入れた検討を進めていく」は「CASBEE に基づく S ランクを達成できるよう改築又は改修の設計を行う」とされたい ・（１）イの「・・・の活用を検討する」は「活用する」へ。また、以下「省エネルギー・・・積極的に検討する」は削除する ・（１）イの 2 つ目の黒丸冒頭に、具体的な省エネルギー目標を記述されたい。例えば、「既存の区役所本庁舎及びここに統合される庁舎における現状のエネルギー消費量を半減させるとともに、使用するエネルギーの脱炭素化を目指すこととし、このため、」といった表現を掲げられたい ・（１）エにおいて、既存樹木の保存活用（移植を含む）を書きこまれたい ・文末が「検討する」となっており箇所が多く、方針としての具体性が乏しいため、「実施する」あるいは「図る」程度の表現を採用されたい	P 2 3	
	・スケルトン状態にして、柱とかスラブとかが使えるのであれば、解体ごみが少ないというのはその通りである。また、スケルトンまですれば、かなり自由に設計ができるので、初期に出る CO2、壊して出る CO2 だけでなく、総合計が減るということは可能である（小林） ・前回の議事録に、世田谷区であまり CO2 対策しなくてもよいということも書かれていたが、法令的には自治体には率先した対策が求められており、世田谷区も環境基本計画などで、自ら CO2 対策をするということを決めているので、法令遵守で対応していただきたい（小林）	-	第 4 回
世田谷区民会館	・１．基本的な考え方について、採算等の問題から民間ではやらないけれども、区民の生活・意欲・文化といった観点から、採算を度外視してやっていただきたい（官尾）	P 2 5	第 3 回
	・２．施設計画については、区民が平等に恩恵を受けることができる施設とする必要がある。区役所と同じ場所に巨大なものをつくるのではなく、区のある中心にすることがふさわしいイベントホールだけでよいと考える（官尾）	P 2 5	
	・多目的機能については、地域ごとに効率的な配置が現在もあるようなので、これを進めていけばよい（官尾）	P 2 5	
	・３．交流機能について、レストラン・カフェは不要である。こういう施設は民間に任せ、民間業者に土地を貸して定期借地方式で事業をやらせるべき（官尾）	P 2 6	
	・基本的考え方について、ホールの目的、整備の目的は何なのか。何に使い、区民生活の中でどう生かしていくのが最初になく、多目的ホールとして整備するというのは非常に違和感がある（高谷）	P 2 5	
	・改修するとしても、耐震補強、バックスペース、客席の前後幅などかなり変わるので、800 席程度になると思うが、800 席になっても目的を達成できるということをきちんと書く必要がある（高谷）	P 2 5	
	・資料の区民会館利用者数が申請時の人数であるならば、実際の利用者数はもう少し少なく、座席数が 800 か～1000 席程度に減ったとしても、残りの 10%を切り捨てるようなことにならなければよい（大佛）	規模資料	
	・世田谷区民会館が建設された昭和 3 4 年当時、この地域には文化的な施設がなかったため、文化的なホールをつくらうと考えたと理解している。近年は震災が非常に話題となっている。1,200 席は非常に大きな空間と設備費がかかり、利用も公用が半分以上を占め、これらは税金で負担している。こうしたことから、区民会館は廃止して災害公園としてはどうかと考える（岩淵）	-	
	・世田谷区民会館については、リノベーションして現代に合ったような形で使いやすくすることが非常に重要だと思う。世田谷区民会館には、世田谷区民の文化が宿っている（黒木）	-	
	・世田谷区民会館の廃止には反対である。存在価値のある有意義な区民会館にしてもらいたい（勝	-	

テーマ	主な視点・意見等	検討素材該当ページなど	検討回（意見のあった回）
	守） ・区民会館も、区民自治と協働、交流の拠点に入るのではないかと（齋藤） ・区のシンボルとして何を考えるのかということで、自治・文化・交流ということを位置づけるかどうか重要だと思う（齋藤） ・レストラン・カフェはあったほうがよい。バスを待つ間や、夜のコンサートに勤めの帰りにぎりぎりですぐに入る前に少し食べたり、非常に利用価値がある（山崎（廣）） ・文科省は、形は古いまま、新しく作りかえた。古いものを維持することはランニングコストも高くなる。お金の面にもう少し配慮したことを考えていく必要がある（山崎（節）） ・舞台、客席、楽屋など、現状が面積どのくらいで、どういうものになるのか、ビフォー・アフターを示すべき（山崎（節）） ・文化政策を区として示してほしい。演劇系はパブリックシアターやトラムがあるから、ここは音系など（高谷） ・800 席でよいとすると、設備とかやり直して、音環境を非常に良いものに変えても、経験上、コスト的にはずっと安くできると思う（高谷） ・世田谷地域だけ 1,202 席となっているが、500 人前後にすれば他の地域とのバランスが取れてくるのではないかと（岩淵） ・バリアフリーについては改善してほしい。行きたくても行けない人がたくさんいると思う（多） ・災害時の物資の置き場所としても規模を考えたほうがよい（多） ・この周辺には大勢で入れるカフェやレストランがないので、不可欠である（多） ・カフェ、レストランなどで収益が上がるような施設をつくるというのは重要だと思う（佐藤（陽）） ・庁舎でも区民会館でも、保守点検の費用があまりかからないような施設を考えていくべき（佐藤（陽））	P 1 3 P 1 3 P 2 6 - - P 2 5 - 規模資料 P 2 6 P 2 6 P 2 6 P 2 6 P 2 6	
	阿部委員から提出された意見 ・レストラン・カフェについて、すでに記載されている内容に加え、管理運営を行っていく上での財源負担軽減のためにも、こうした収益施設の存在は重要であると思われる ・管理運営について、管理運営財源を税金のみに求めるのではなく、収益施設による管理運営費削減のシステムも考慮した施設導入の検討が望まれる。また、より収益を上げるためには、例えばレストランやカフェの内装も大事だが、それと同じように室内（またはテラス席）から望むランドスケープ（風景）が施設の収益性を高める上で重要かと思う	P 2 6 P 2 6	
本庁舎等の規模	・今後、人口知能の活用が増えてくる。1 人あたりの面積が 1 8 m ² とのことだが、その位あればよいと思う。職員数の増加を見込む必要はないだろう（山崎（節）） ・他区比較の資料では、練馬区や足立区は職員数が 2,000 名程度である。一概に比較はできないが、職員数を減らすということについては、重要な問題ではないかと（池谷） ・公用車 1 7 0 台とあるが、これから環境を前面に押し出していき、公用車を利用して動くということが本当にどの程度必要なのか。また、それに必要な運転手がどのくらい実働しているのか。これからなるべく自動車を使わない時代に入っていこうという中で、もう少し真摯に考えるべきではないかと（黒木）	規模資料	第 3 回
	阿部委員から提出された意見 ・「本庁舎に入る職員を想定し」とあるが、「本庁舎に入る職員、および利用する区民を想定し」ではないかと ・広場の規模についても触れるべきである。具体的な規模については、「 日常のイベントでの入り込み客数」及び「 防災時対応の規模」が少なくとも想定される。 では、年間のイベントから推計し、 では、発災直後の庁舎利用者・職員、周辺からの避難者数、その後の復旧車両の数等、時間の経過にともない広場に求められる機能と規模は変化していく。防災公園については避難者 1 人あたり 2 m ² とあるが、今回は、公園ではなく庁舎であるため、この数字を満たす必要はないと考えるが、発災直後は相当数の人々が集まる可能性はあり、もしこの数が広場規模を超えた場合、みどりのネットワークをつたって周辺のオープンスペースへ振り分けることが混乱を避ける手立てのひとつと思われる	P 2 7 -	
	・世田谷総合支所の移転については、本委員会の報告書の段階で決めることは難しくても、なお書きくらいに、十分検討すべき、さらに進めてほしいといったことを書くべきである（卯月）	-	
本庁舎等の配置と形状（高さ等について）	付箋による意見（別紙参照）	配置と形状資料	第 4 回
道路廃止等について	・不利益を被る敷地については、その部分だけ道路を残せば良いのではないかと。また、手続き的な問題があるのであれば、工事と並行して行うこともできるのではないかと（小林） ・道路廃止の手続は、建物を建替えていくプロセスの中にうまく組み込んでいくことは十分にできると思う（高谷） ・電話相談室で国土交通省に聞いたが、区道であれば区の裁定でいかようにもできるのではないかとのことであった。区道廃止の積極的な検討を願いたい（岩淵） ・区道なので、手続を踏んでいけば大きな問題なく廃止できるはず。かつ、完全に道路機能を廃止するのではなく、敷地内通路として機能させることも考えられる（黒木）		

テーマ	主な視点・意見等	検討素材該当ページなど	検討回（意見のあった回）
建物について	<p>・本当に廃止や付け替えによるメリットがあるのかどうか。感覚的には道路でないほうがよいと思うが、整理が必要である（卯月）</p>		
	<p>阿部委員からの意見</p> <p>・自転車歩行者専用道路にするなどにより、敷地を一体的に使用できる方法を検討してほしい。ランドスケープの観点からも、道路も広場と一体的な見え方により、通常は一体的に使用できる</p>		
	<p>・地下２階までというのは絶対条件なのか。ホールを地下にすれば、大きく地上部の床面積を稼ぐことができるのではないか（小林）</p> <p>・日影の問題は、きちんと理由を説明していけば、克服できると思う（高谷）</p> <p>・地下３階について、西側が５m くらい落ちているということであれば、日照をとったりすることもできるので、３階が絶対いけないというのは建築的に大きな疑問を感じる（高谷）</p> <p>・高さについて、周辺が３３mだからここも３３mということではなく、本庁舎が目指すものは何かという大きなコンセプトのもとに高さを決めていく必要がある。今建てられている国土館などの高さを近隣住民がよく思っているのか、もしかしたら不愉快だと思っているかもしれない（黒木）</p> <p>・８階でも高いという指摘があった。建物の床面積との関係もあるので、一緒に検討すべき（卯月）</p> <p>・区民会館保存案などは、ケヤキ並木があるのはいいが、８階建ての段々の建物がこんなにも長くなってしまう。したがって、ボリュームというのは高さと言長さということを含めて考えたほうがよい。仮にこの長さがあっても、圧迫感を感じさせない工夫をすべきで、十分配慮が必要（卯月）</p>		
広場・緑地など	<p>阿部委員からの意見</p> <p>・周辺環境への配慮として、南側敷地への圧迫感の軽減は必要。それができれば、敷地南側に階高の高い建築を配置することは可能</p>		
	<p>・国土館広場との連携が重要。面積だけクリアできればよいのではなく、場所と機能をきちんと確保しなければならない。平常時と発災時の役割を明確にすべき（卯月）</p> <p>・屋上部分の活用について、緑地としての活用、発災時の活用、日常時にも開放していることもあるので、屋上含めて広場、緑地、機能を明確にしていく（卯月）</p> <p>・広場と緑地を区切るのではなく、もう少し平常時と発災時の区民利用という視点から整理をしてほしい（卯月）</p>		
	<p>阿部委員からの意見</p> <p>・災害時の周辺からの避難者、物資集積や荷捌きのスペースなども考慮し、なるべくまとまった広場があるほうがよく、それを前提としたうえで、広場の分散配置を可とするのがよい</p> <p>・広場と緑地を分けて考えるのではなく、空間デザインとしては一体的に考えてほしい</p> <p>・郷土の風景という視点で、現在の敷地が斜面地であることを記憶するようなデザインもありうる。広場と建築物と重層的に配置することができ、敷地面積を有効に使うことができる</p> <p>・現在のピロティとそれによって光と風をとらえている構造は、密集した市街地においては非常に重要</p> <p>・通常時と災害時の機能の面からも、広場機能と一体となったピロティを整えることができるとよい</p> <p>・発災時には、国土館側、くぬぎ公園及び補助１５４側の双方に避難者が移動できる導線を確保する必要がある、その点を考慮した広場と庁舎等の配置を考えるべき</p>		
検討にあたって	<p>・この委員会ですべきことは、低い案がいいとか、高い案がいいとか、案を決めることなく、設計の与条件を決めることである。一番議論しないといけないのは面積、大きさの問題が１つ目、２つ目が既存の建物をどう処理するかである（高谷）</p> <p>・世界遺産に指定されようとしているときに、その愛弟子の建物を世田谷区が壊してしまったというと、相当禍根を残すため、何かを諦めなければならないのであれば、その知恵と工夫を出すべきである。そのうえで、設計条件のオルタナティブを区民に委ねるべきである（高谷）</p> <p>・改築ステップはまだ精査されていない。参考案２でも、免震や地下改修などを居ながらで東敷地でやって、一部地下増築をしたり、来庁者用駐車場の上に仮設のプレハブをつくるとか、色々なやり方があるのではないかと（高谷）</p> <p>・案１と案２は設計条件としては全く同じであり、高いとか低いとかは設計者に任せても解決する問題である。議論すべきは設計条件である（高谷）</p> <p>・災害対策本部のある第３庁舎を動かせないと、全体プランの足かせ、手かせ、コスト高、工期延長になる。第３庁舎を他で代用するという考えもあるのではないかと（黒木）</p> <p>・既存の建物を残せない理由として、緑地が足りないということと、地下３階になってしまうということくらいしかない。緑地は地面でなければならないのか。屋上ではいけないと決まっているのか（小林）</p>		